

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度9月号

○ 概要

- (1) 令和6年度9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,682億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲3.0%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,480円（伸び率+0.1%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,817億円（伸び率▲1.2%）、薬剤料が4,851億円（伸び率▲3.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が906億円（伸び率▲4.1%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,361円（伸び率▲2.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.79種類（伸び率+1.1%）、27.8日（伸び率+2.5%）、69円（伸び率▲6.0%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,779億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲229億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の730億円（伸び幅+7億円）で、伸び幅が最も高かったのは52 漢方製剤の+22億円（総額152億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,779 億円 (▲229 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(730 億円)	21 循環器官用薬 (531 億円)	11 中枢神経系用薬 (520 億円)
0 歳以上 5 歳未満	18.2 億円 (▲0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (5.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	95.0 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (30.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (26.1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,418 億円 (▲137 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(275 億円)	11 中枢神経系用薬 (271 億円)	42 腫瘍用薬 (167 億円)
65 歳以上 75 歳未満	772 億円 (▲82 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(178 億円)	42 腫瘍用薬 (136 億円)	21 循環器官用薬 (122 億円)
75 歳以上	1,476 億円 (▲9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(268 億円)	21 循環器官用薬 (246 億円)	42 腫瘍用薬 (198 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,480円（伸び率+0.1%）で、最も高かったのは高知県（11,322円（伸び率▲0.2%））、最も低かったのは佐賀県（8,305円（伸び率+4.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福島県（伸び率+4.7%）、最も低かったのは石川県（伸び率▲2.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	86.6 %	+2.0 %
薬剤料ベース	18.7 %	▲0.1 %
後発品調剤率	80.0 %	▲0.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.8 %	▲1.3 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.1 %	+2.0 % (100 歳以上)	▲10.9 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.7 %	28.3 % (100 歳以上)	10.7 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	86.6 %	90.4 % (100 歳以上)	83.4 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	768 億円 (▲37 億円)	21 循環器官用薬 (237 億円)	11 中枢神経系用薬 (137 億円)	23 消化器官用薬 (93 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.3 億円 (▲0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)	62 化学療法剤 (0.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	16.1 億円 (▲0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (8.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	270 億円 (▲16 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (28 億円)
65 歳以上 75 歳未満	155 億円 (▲16 億円)	21 循環器官用薬 (59 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (19 億円)
75 歳以上	321 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (111 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,285 円	1,653 円(北海道)	1,117 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.0%	+5.4 %(徳島県)	▲3.0 %(石川県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	86.6 %	92.1 %(沖縄県)	83.3 %(東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.7 %	21.6 %(鹿児島県)	16.5 %(京都府)
後発医薬品調剤率	80.0 %	84.6 %(沖縄県)	76.1 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.8 %	64.9 %(沖縄県)	55.1 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。